

日本ロレンス協会第44回大会プログラム

日時：2013年6月22日（土）、23日（日）

会場：北九州市立大学（北方キャンパス）本館D-401

住所：〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2番1号

連絡先：北九州市立大学文学部比較文化学科資料室 tel：093-964-4133

田部井研究室 tel：093-964-4149; e-mail：tabei@kitakyu-u.ac.jp

交通アクセス：

JRをご利用の方： JR 小倉駅下車 → 北九州モノレール「小倉駅」より約10分、「競馬場前・北九州市立大学前」下車 → 徒歩約3分。

北九州空港をご利用の方： 西鉄バス「九州自動車道・中谷三萩野（高速）経由砂津行き」に乗車し約35分、「競馬場前・北九州市立大学前」下車 → 徒歩約3分。

交通手段については、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.kitakyu-u.ac.jp/access/kitagata.html>

※許可車両以外の大学構内乗り入れは禁止されていますので、車での来場はご遠慮ください。

昼食のご案内：

[22日(土)] 生協学生食堂（厚生会館内）は10時半から2時まで営業予定。

[23日(日)] 生協学生食堂は休業していますが、学生たちのミニ学園祭が実施されるため、簡単な食べ物を売るテントがあるのではないかと思います。

※大学から徒歩圏内に食事処等は数軒あります。また、モノレールで10分の小倉駅周辺には数多くの食事処があります。なお、自動販売機は大学キャンパス内にございますので、飲料のご持参は unnecessary です。

役員会：

日時：6月22日（土） 11:00～13:00

場所：北九州市立大学（北方キャンパス）本館E-1302（一番高い建物の13階、エレベーターを降りてすぐ目の前の部屋です。13階まで上がるエレベーターは1か所のみです。キャンパスマップをご確認ください。）

昼食を用意します。代金は当日お支払いください。

※近年インターネットによる予約の方が団体予約より割安になる場合が多い為、2011年から協会を通じた役員用宿泊予約はいたしておりません。役員の方は、お手数ですが、9頁のホテルリストをご参照いただき、各自でホテルをご予約いただくよう、お願い申し上げます。

第1日目：6月22日（土曜日）

受付：13時30分より

総合司会：田部井 世志子（北九州市立大学教授）

◎開会の辞：会長 武藤 浩史（慶應義塾大学教授）（14:00）

◎開催校挨拶：北九州市立大学文学部長 佐藤 眞人^{まさと}（北九州市立大学教授）（14:05）

研究発表

◎1. 14:10-14:45

司会 田形 みどり（前東海大学准教授）

Nudity：ロレンスにおける小説的美学とその政治性

水田 博子（大阪大学大学院博士後期課程）

◎2. 14:45-15:30

司会 立石 弘道（日本大学大学院講師）

【招待発表】ロレンスとシンマクス：現代と古代の異教擁護者

飯田 武郎（久留米大学教授）

*休憩 15:30-15:40

シンポジウム1

◎小田島恒志訳『ホルロイド夫人、夫を亡くす』の徹底分析 15:40-17:40

司会 加藤 洋介（西南学院大学教授）

『ホルロイド夫人、夫を亡くす』の上演台本の翻訳について

講師 小田島 恒志（早稲田大学教授）

「ホルロイド夫人」の翻訳について

講師 戸田 仁（前就実大学教授）

戯曲翻訳の政治学：翻訳者の「透明性」と声

講師 三宅 美千代（早稲田大学他、非常勤講師）

◎総会 17:50-18:30

◎懇親会 18:40-20:30 ごろ

場所：厚生会館 会費：¥5,000（大会当日受付でお支払いください）

第2日目:6月23日(日曜日)

シンポジウム 2

◎炭鉱と文学——ロレンスからオーウェルへ 9:00—12:00

ゾラからロレンス、そしてその向こうへ——文学に描かれた炭鉱の系譜

司会・講師 岩井 学 (熊本保健科学大学准教授)

「炭鉱」という呪縛——ロレンス文学における炭鉱の影と光

講師 浅井 雅志 (京都橘大学教授)

ロレンスが描いた「心の故郷」イーストウッドの「炭鉱」——「シャーウッドの森」は消滅していたのか？

講師 杉山 泰 (京都橘大学教授)

理想の共同体か、悲惨の象徴か——1930年代メディアにおける炭鉱表象

講師 福西 由実子 (中央大学准教授)

◎閉会の辞:副会長 新井 英永 (熊本大学教授)

研究発表

Nudity: ロレンスにおける小説的美学とその政治性

水田 博子 (大阪大学大学院博士後期課程)

ロレンスは思想的な作家であるが、いかに思想を持っていてもそれは小説本来の存在理由とはならない。小説とは抽象を使わずに新たな衝動、新たな感情を見出すものであるとロレンス自身述べている。新たな感情を見出すためには、知性が感覚に対してあらかじめ投影してしまっている対象(物)のイメージを離れて、すなわち対象(物)を剥き出しにすることによって、「感覚されるもの」としての対象(物)と「感覚するもの」である身体との間に新たな通路を作らなければならないのである。そしてそれは哲学という形ではなく「小説的思考」という形を取って具現化されなければならないのだ。

「剥き出しにする」というテーマとそれを具現化する言語 (literary technique) との関係をここでは「小説的美学」と呼び、ロレンス自身の絵画論や絵画自体の分析をもとにした芸術論的アプローチを小説の分析に応用する。同時にこうしたロレンスの美学が含意する政治性、すなわち古い方法に穴をあけ新しい通路を作ろうとする activism について Nudity というキーワードをもとに考察する。本発表で扱う作品は「チャタレー夫人の恋人」「死んだ男」「黙示録論」である。

【招待発表】 ロレンスとシンマクス: 現代と古代の異教擁護者

飯田 武郎 (久留米大学教授)

ロレンスは処女作 *The White Peacock* から最後の中篇小説 *The Escaped Cock* に至るまでしばしば様々な異教の神々を登場させている。また、詩 “All Sorts of Gods” やエッセイにおいては自分は神々を信じるのだと自身の信念まで吐露している。そして最後のエッセイ *Apocalypse* では古代ギリシャ人はどのようにして神(テオス)を直感したかについて詳述し、神々とは人間の心に宿るものだと先輩詩人 W. ブレイクと同じような結論に達している。このようなロレンス文学における異教の存在に注目した研究に甲斐貞信、倉持三郎、豊国孝、P. メリヴェイル、A. ヴィイニッカ各氏のものなど多くあるが、従来の研究では触れられなかった点を本発表で取り上げてみたい。

4世紀末古代ローマのテオドシウス帝政時に、司教アンブロシウスを中心にキリスト教国教化が強化・推進された。一神教の影響に危機感を抱いた首都長官シンマクスは、アンブロシウスとは異なりローマの神々を信ずるが故に、伝統的多神信仰を犠牲にすべきではないと皇帝宛てに書簡を送り進言した。「異教ローマの誇りの最後の炎」たる首都長官の必死の訴えもむなしく、多神信仰はやがてキリスト教によって異教のレッテルを貼られ弾圧される。司教アンブロシウスの勝利とともに多神教は滅び、以後一神教がヨーロッパ世界を支配するようになる。しかし、20世になりロレンスが敢えて行った異教復活の試みは、葬り去られたはずの古代ローマのシンマクスの訴えに英国人作家が耳傾け文学という形によって見事に応えた結果と考えられないだろうか。ロレンスとシンマクスの関連性についてはロレンスの *Movements in European History* と E. ギボンの *The Decline and Fall of the Roman Empire* を手掛かりに考えてみたい。

シンポジウム 1

小田島恒志訳『ホルロイド夫人、夫を亡くす』の徹底分析

司会 加藤 洋介 (西南学院大学教授)

昨年、日本ロレンス協会大会において、『ホルロイド夫人、夫を亡くす』のリーディング公演が行なわれた。公演として聴衆に大きな感銘を与えただけでなく、劇作家ロレンスの再評価を促す画期的な企画でもあった。公演の成功が今回の企画につながり、公演でつかわれた台本、小田島恒志氏による新訳を、今回のシンポジウムで徹底分析することになった。新訳の特徴、公演台本としての意図、ロレンスの劇作品に対する評価など、翻訳にかかわる問題をとりあげ、前回のリーディング公演の「舞台裏」を明らかにすることを意図する。訳者である小田島氏を講師の1人として迎え、新訳を分析する二人の論者が小田島氏とともに討論するという形式でシンポジウムを進める。まずは小田島氏に昨年のリーディング公演をふり返っていただき、次に二人の論者による新訳の分析に移り、最後に全体で討論という手続きをとる。

『ホルロイド夫人、夫を亡くす』の上演台本の翻訳について

講師 小田島 恒志 (早稲田大学教授)

昨年、日本ロレンス協会全国大会(於:成城大学)で行った、ロレンスの戯曲『ホルロイド夫人、夫を亡くす』(*The Widowing of Mrs. Holroyd*)のリーディング公演で使用した翻訳テキストについて、翻訳/演出を担当した立場から、その意図について解説をする。ロレンスの完結した8作の戯曲は先達の研究成果としてすべて邦訳で読むことができるが、実際に上演を前提に翻訳するとなると少し勝手が違ってくる。今回担当者は、これまで80作以上の現代英米戯曲を実際に上演するための台本として翻訳し、舞台上演に携わってきた経験に基づいて、いささか研究者諸氏とは違う姿勢でテキストと向き合って新訳を試みた。その結果見えたことと蔑ろにしまったことなど、上演用翻訳及び上演そのものによる功罪を、昨年のリーディング公演の映像を適宜用いながら検証する。

「ホルロイド夫人」の翻訳について

講師 戸田 仁 (前就実大学教授)

一般的な言い方をしますと、小説や短篇を翻訳する場合、いちばん難しいのは会話の部分です。今回のシンポジウムでは会話ばかりで成り立っている演劇の翻訳を取り上げるということで、恐怖すら感じています。英語と違って日本語の会話は主語や目的語をできるだけ省略して訳するほうが自然ですが、あまり省略しすぎると会話の流れが悪くなります。逆に省略すべき代名詞の「それ」は前に出てきた普通名詞(句)で繰り返したほうが良くなる場合もあります。

「ホルロイド夫人」はスタンダードな英語で書かれてはいません。文法に忠実な英語ではなく、単語にしても辞書に載っていないものが頻出します。スペリング通りに発音してみても何とか意味のわかるものもあります。例えば、axed は asked、hoom は home ではないかと想像できます。会話は話している人の社会的地位、知的レベル、性格、男女の別などを意識して訳さなくてはなりません。それに加えて「ホルロイド夫人」の場合、ノッティンガム地方の炭坑夫たちの方言や俗語、強い訛りでの会話が多くて意味がわかりにくく、わかってても卑俗な俗言(標準的な方言?)に置き換えなくてはなりませんので大変です。とまれ、ト書きに助けられても、よくわからない、まったくわからない会話が散見されますので、このシンポジウムでは、わけのわからない英語をどういふふうにつまれば意味のある日本語になるのかを中心に教えていただければと思っています。

戯曲翻訳の政治学: 翻訳者の「透明性」と声

講師 三宅 美千代 (早稲田大学他、非常勤講師)

翻訳者の「透明性」とは、一応の原則ではあるが、幻想にすぎない。複数の言語間で選択・交換・取引しながら訳語を決定していく現実の翻訳作業のなかで、言語間の差異やズレが、訳文のなかに翻訳者自身のテキストの読解や解釈を要請することは少なくない。

このような翻訳者の痕跡は、英語圏の文学作品を日本語に翻訳する場合には、とりわけ人称や語尾の選択といったかたちで感知される。日本語の訳文作成には人称や語尾の決定が不可欠であるが、この原語にはない不可避的「過剰」こそが、登場人物や語り手の「声」の性格を受け手に印象づけることになる。

2012年にリーディング公演が行なわれたD・H・ロレンスの戯曲 *The Widowing of Mrs Holroyd* の翻訳について、以上のような問題意識に基づき、翻訳者の小田島恒志氏に質問してみたい。会話を中心に構成される戯曲や上演台本の翻訳においては、登場人物の社会的立場や性格、人物同士の関係をめぐる訳者の理解は「声」の創出のうえでより一層重要になってくる。小田島訳から読みとれる作品解釈や翻訳者の意図を(ご本人にもうかがいながら)検討し、さらに日本語で表わす際の判断や手つきにかいまみえる政治性について、翻訳とジェンダーの議論につなげることができればと考えている。

シンポジウム 2

炭鉱と文学——ロレンスからオーウェルへ

ゾラからロレンス、そしてその向こうへ——文学に描かれた炭鉱の系譜

司会・講師 岩井 学 (熊本保健科学大学准教授)

炭鉱は多くの文学テキストのなかで様々に描かれてきた。それは時に冒険小説の主人公たちが探検する神秘の場所として、また時に労働者たちが一体となって働き交歓する場として、また時にルポルタージュの対象として。本シンポジウムでは、D. H. ロレンスからジョージ・オーウェルへの流れを中心に据え、炭鉱がどのように描かれてきたのかを探る。

岩井は、ロレンスと同時代のテキストを中心としながら、それ以前の(ロレンスも読んでいた可能性のある)ゾラ『ジェルミナール』やロレンス以後の世代の作家たちのテキストに描かれた炭鉱を概観する。浅井氏はロレンス作品で描かれる炭鉱の表象を分析し、そこにどのような意味付けがなされているか考察する。杉山氏は、主に文化史的観点からロレンスの描いた炭鉱に分析を加える。そして福西氏は、オーウェルを含めた、ロレンス以後の一九三〇年代における様々なメディアにおける炭鉱表象について考察する。今回のシンポジウムを通して、ロレンスからオーウェルへの流れの中で、炭鉱が作家たちにどのような想像力をかき立て、それを作家たちがどのように描いてきたのか、通時的縦糸と同時代的横糸を意識しながらその一端を明らかにできればと考えている。

「炭鉱」という呪縛——ロレンス文学における炭鉱の影と光

講師 浅井 雅志 (京都橘大学教授)

ロレンスは多くの作品で、直接的にも間接的にも炭鉱を描いた。この発表では、その炭鉱表象をいくつかの側面に分類し、考察を加えたいと思う。その第一は近代産業資本主義の象徴というもので、これはすでに多く論じられてきた。また家庭「崩壊」の主因として背景的に描かれることも多い。さらには、そのもっとも極端な形として炭鉱での死が描かれるが、その事故死は多くの場合「無駄死」として描かれる。たしかに、

その死を契機に生前は不幸だった夫婦関係を見直すといった、正の価値を付与されているものもあるにはあるが、基本的には、炭鉱はいつ不幸が起こってもおかしくない「闇の奥」、伏魔殿である。しかしその一方で、炭鉱を地下＝冥界への通路、地上の日常的因習から切り離され、男同士がホモソーシャルな関係を取り結べる「聖別」された場所として描くこともある。これはおそらく正の価値を伴った唯一の表象だが、この場合、炭鉱の産業的側面は切り離され、一つの観念、隠喩として使用されているのではないか。こうした側面の考察を通して、ロレンスが炭鉱という場所および観念にいかなる役割を担わせようとしたのかを考えてみたい。

ロレンスが描いた「心の故郷」イーストウッドの「炭鉱」——「シャーウッドの森」は消滅していたのか？

講師 杉山 泰（京都橘大学教授）

「ロレンスと炭鉱文学」と聞いて連想するのは、「19世紀のイギリスの発展と石炭」であり、「炭鉱労働者と蒸気機関車」、あるいは、「鉄道の発展とパブの酒場化」「アル中による労働者の死亡平均年齢の低下」などだろう。一方で産業発展という光があり、他方で労働者階級のアル中化と環境破壊という影がある。

『息子と恋人』には、その光と影が描かれているのだろうか。作品中のモレル夫人は31歳の時、結婚8年目のある年の7月、「谷底長屋」(The Bottoms)へと引っ越してきたが、実は、「建築後すでに12年もたっていたし、ずっと低い谷底へと続いていたので移りたいとは思っていなかった」。その舞台となったEastwoodの「ブリーチにある端の家」に私も4か月ほど滞在したことがある。実際の炭坑夫の家の広さ、庭はどうなっていたのか、炭坑夫の給料はいくらだったのか、藤原弘一先生の『D.H. ロレンス — 実証的研究 —』（大阪教育図書、2007年）の資料を生かして紹介したい。作品に描かれた「炭鉱」と実際の「炭鉱」とのズレはどの程度あったのか。ロレンスのエッセイ「ノッティンガムと炭坑地帯」「ベストウッドへの帰還」を取り上げ、ロレンス自身、炭坑夫の自分の父親や、イーストウッドの炭鉱をどう思っていたのか、考えてみたい。

労働者階級を描き、ロレンスを愛読したというアラン・シリトーは、「新しい作品を書き始める際には必ずD.H. ロレンスの作品を読みました」、と2005年にイーストウッドで50名ほどの聴衆に語ってくれた。「ロレンスの作品を読んでいると、描かれているその場所を今なお私は辿っていくことができます。……ロレンスの故郷の心の地図はきわめて正確なのです」というシリトーの言葉は、そのまま信じていいものかどうか、自伝的小説としての五木寛之『青春の門』などとの比較ができればさらに面白い答えも出てくるかもしれない。

理想の共同体か、悲慘の象徴か——1930年代メディアにおける炭鉱表象

講師 福西 由美子（中央大学准教授）

ロレンスを辿るようにウェントワースに潜ったジョージ・オーウェル、時代のアイコンとしての炭鉱夫とその暮らしぶり取材したフォト雑誌、採炭切羽をパターナリスティックな視点で切り取ったドキュメンタリー映画、大衆意識調査の対象を北部炭鉱にもとめたマス・オブザーヴェーション。本発表では、ポスト・ロレンス時代、すなわちファシズム、不況を背景に政治文化において「普通の人びと」への関心が高まる1930年代に、様々なメディアがどのように炭鉱および炭鉱夫を表象したのかを分析してゆく。

まずオーウェルの『ウィガン波止場への道』において、その視覚・嗅覚を重視した表象が彼の罪意識・階級意識と密接に関連することを、日記との表現のずれ、あるいは文学的構成を論じるなかで確認する。次に30年代に英国で花開いたフォトジャーナリズム、とりわけ英国最初期のフォト雑誌とされる『ウィークリー・イラストレイティッド』、『ピクチャー・ポスト』のフォトストーリーを検討し、雑誌の主たる担い手であった亡命ユダヤ人ジャーナリストたちが構築した「典型的な」北部像を探る。さらにドキュメンタリー映画運動の旗手であったジョン・グリアスンの映画『コール・フェイス』が炭鉱に見たコレクティヴィズムの理想とは？ 人類学者トム・ハリスンが音頭をとったマス・オブザーヴェーションが「科学的に」調査し導こうとした炭鉱像とは？ 時間の許す限り多様なメディアにおける炭鉱表象に迫りたい。

お知らせ

今回のシンポジウム「炭鉱と文学」が企画されたのは、大会開催地の北九州市（筑豊地区石炭の積出港）とロレンスを結びつけるものが「炭鉱」であったからにはかみりません。主にイギリスの炭鉱と文学に思考を馳せた後、足元を見つめる機会として、以下にご紹介する筑豊田川（五木寛之『青春の門』の舞台）の博物館を訪れてみてはいかがでしょうか。

「田川市石炭・歴史博物館」の紹介

二本の大煙突と堅坑櫓がそびえ立つ石炭記念公園の一角に炭鉱の殿堂、田川市石炭・歴史博物館があります。筑豊地方最大の炭鉱であった三井田川鉱業所伊田坑の跡地に1983年オープンしたものです。かつて日本のエネルギーを支えた筑豊炭田の石炭産業に関する資料を展示した石炭鉱業史の専門館です。

博物館が所蔵する資料は総数約2万点におよび、うち約1万5千点が石炭資料で明治から昭和までのものを体系的に収集されています。また、平成23年5月にUNESCOにより日本で初めて「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛コレクション697点のうち、炭坑記録画585点、記録文書等42点の合計627点も所蔵されています。

石炭資料の他に、日本最古級の馬形埴輪や甲冑形埴輪、セストノ古墳から出土した多種多様な古墳時代の武器・武具・馬具、さらに、天台寺跡（上伊田廃寺）から出土した日本一華麗な文様とされる新羅系瓦など、全国的に著名な考古・歴史資料も収蔵、展示されています。

博物館の屋外には、『炭坑節』発祥の地の記念碑も建っており、また、筑豊内外の大型の炭鉱機械類も展示されており、今や貴重な資料となっています。

所在地 〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2734-1 石炭記念公園内

電話：0947-44-2000(内線573)または0947-44-5745

✉ tchm@lg.city.tagawa.fukuoka.jp

利用案内：

開館時間：9:30～17:30（入館は17:00まで）

休館日：月曜日

入館料：大人210円

小倉からの交通アクセス：

JR（約60分）：小倉駅（日田彦山線）→ 田川伊田駅下車、徒歩8分（線路下道を通り石炭記念公園へ）

バス（約80分）：平和通りバス停から西鉄「田川行き」に乗車 → 石炭記念公園口バス停下車後、徒歩5分

その他、詳しい情報は以下のサイトをご覧ください。「田川市石炭・歴史博物館」等のキーワードで検索していただくと、複数のサイトが出てまいります。

<http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/sekitan/>

http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/sekitan_museum/page_869.html?pg=1

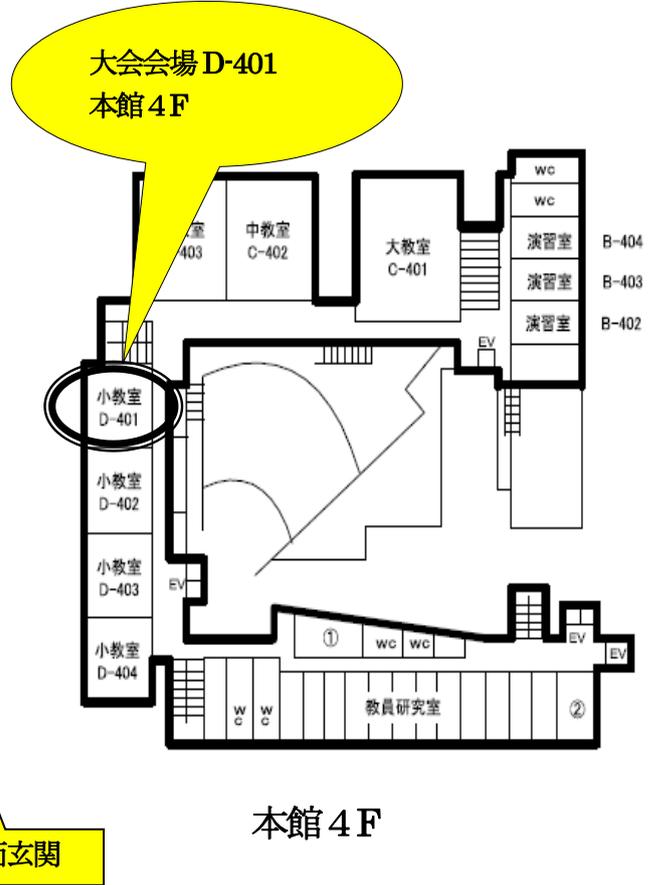
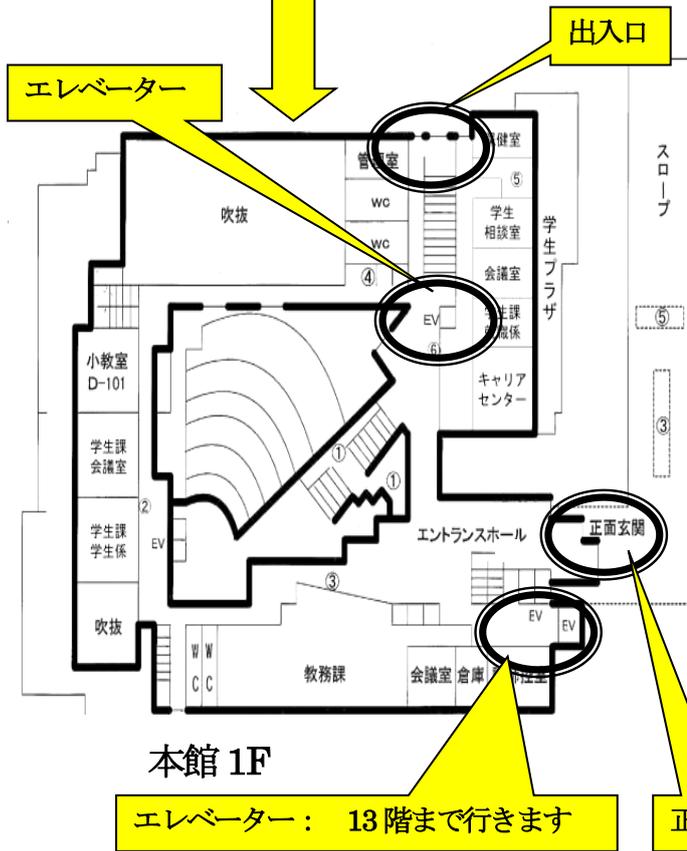
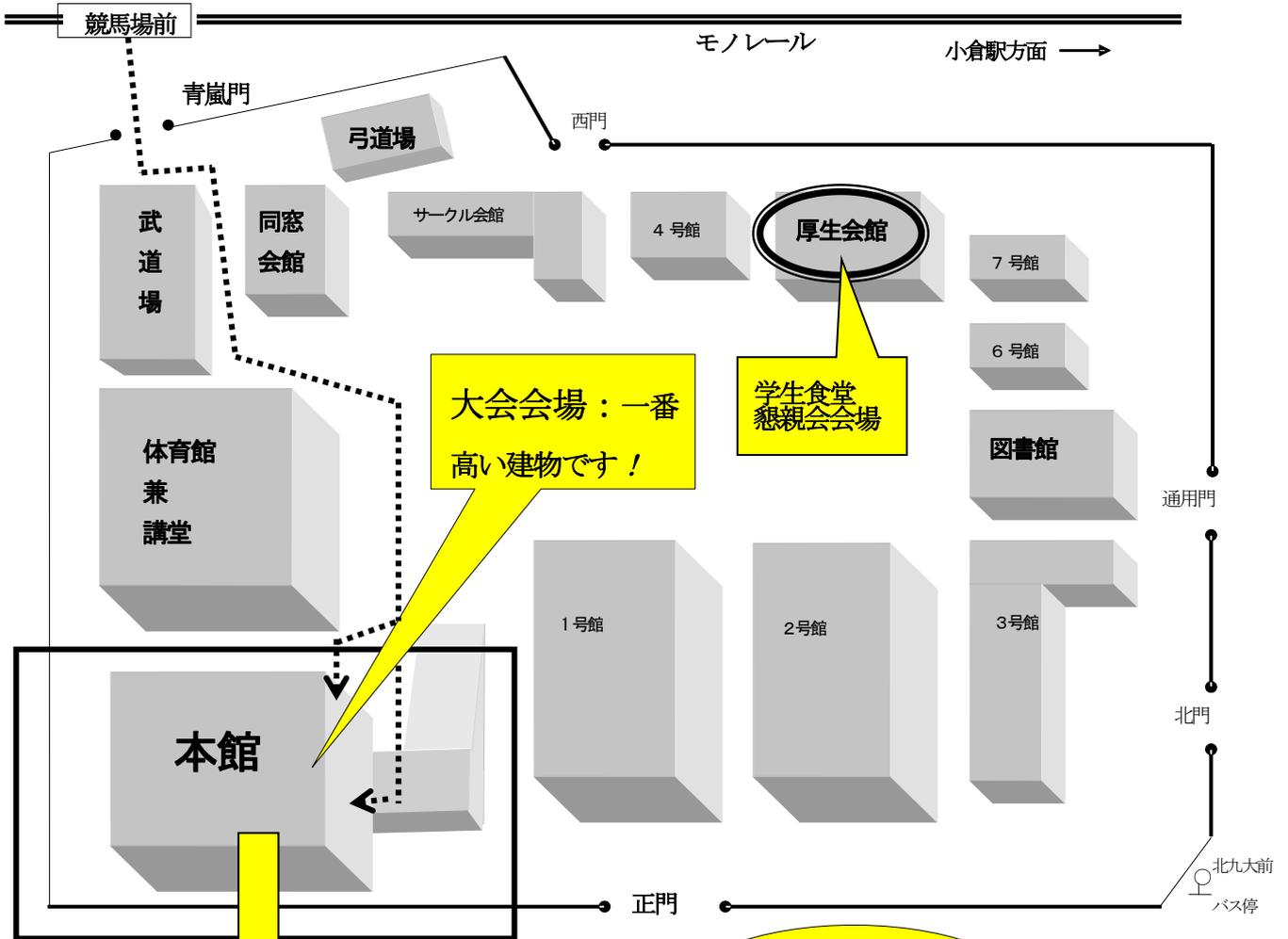
大会会場周辺ホテル情報

北九州市立大学（北方キャンパス）付近にはホテルはございませんので、JR 小倉駅付近のホテルが便利です。JR 小倉駅から大学の最寄駅までは、モノレールで 10 分程度です。

数多くのホテルがありますが、以下にいくつか示します。価格（シングル 1 泊）は「楽天トラベル」調べですが、曜日・シーズンで異なりますので、詳細は各自でご確認ください。

- ・西鉄イン小倉（JR 小倉駅南口より徒歩 4 分）4,200 円～
住所 〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町 1-4-11 TEL：093-511-5454
（北九大生協を通して申し込んでいただきますと、上記の金額のお部屋がない場合でもシングル 5,600 円でご予約いただけます。 TEL：093-961-4430）
 - ・コンフォートホテル小倉（JR 小倉駅北口より徒歩 3 分）4,600 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2-6-21 TEL：093-512-8311
 - ・ブルーウェーブイン小倉（JR 小倉駅北口より徒歩 3 分）4,900 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2-14-65 TEL：093-531-4000
 - ・スーパーホテル（JR 小倉駅南口より徒歩 5 分）4,980 円～
住所 〒802-0002 福岡県北九州市小倉北区京町 1-6-34 TEL：093-541-9000
 - ・ユタカホテル（JR 小倉駅北口より徒歩 30 秒）5,000 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2-13-22 TEL：093-511-0101.
 - ・JR 九州ホテル小倉（JR 小倉駅北口より徒歩 2 分）6,000 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 1-3-6 TEL：093-522-8800
 - ・アイルイン小倉（JR 小倉駅南口より徒歩 5 分）6,500 円～
住所 〒802-0002 福岡県北九州市小倉北区京町 1-6-31 TEL：0120-521009
 - ・ホテルニュータガワ（JR 小倉駅南口より徒歩 8 分）6,900 円～
住所 〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町 3-46 TEL：093-521-7000
 - ・ステーションホテル小倉（JR 小倉駅上）8,000 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 1-1-1 TEL：093-541-7111
 - ・リーガロイヤルホテル小倉（JR 小倉駅北口より徒歩 3 分）15,200 円～
住所 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2-14-2 TEL：093-531-1121
- *****
- ・門司港ホテル（JR 小倉駅から門司港駅まで 3 駅/13 分、JR 門司港駅より徒歩 2 分）11,300 円～
住所 〒801-8503 福岡県北九州市門司区港町 9-11 TEL：093-321-1111

キャンパスマップ 北九州市立大学 校舎等配置図



*****Memo*****